

株主の
皆様へ

『前沢曲家集落』(南会津町)

前沢集落は、平成23年(2011年)6月に「南会津町前沢」として国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

明治40年(1907年)、集落のほとんどの建物を焼失した大火の後に周辺地域の大工の手により一斉に再建されたため、統一的な意匠による景観が形成されました。家屋(主屋)は、茅葺屋根でその構造から直家とL字型の中門造り(曲家)に分類され、中門造りが多くを占めています。

集落内には、中門造り(曲家)13棟を含む伝統的家屋が19棟あり、現在も人々の暮らしが息づいており、日本の原風景を今に残しています。

(提供:南会津町前沢景観保存会)

第52期

株主通信

2019年 秋号

2018年10月1日から
2019年9月30日まで

【個人投資家の皆様へ】

詳しくはホームページをご覧ください。



ふくしまから
はじめよう。



株式会社アサカ理研

Top Message

代表取締役会長 **山田 慶太** (写真左)

代表取締役社長 **油木田祐策** (写真右)



株主の皆様におかれましては、平素より当社の活動に多大なるご支援、ご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

本年10月に発生した台風19号の水害に際しましてご厚情あふれるお見舞を賜り、厚く御礼申しあげます。また、被災されました皆様にご心からお見舞い申しあげ、被災地の1日も早い復旧をお祈りいたします。

ここに2019年9月期における当社の事業概況、および今後の見通しについてご報告申しあげます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、各種政策の効果もあり、緩やかな回復基調が継続しているものの、米中貿易摩擦の長期化や中国景気の減速に伴う影響から、輸出や生産の一部に弱さがみられるなど、先行き不透明な状況で推移しました。

このような中、当社グループの主要な取引先である電子部品・デバイスメーカーの生産は、スマートフォン市場の生産調整、中国景気の減速等により、前年を下回りました。

主力製品である金価格は、主に米中貿易摩擦の長期化や米国の利下げにより前年を上回って推移しましたが、銅価格は主に中国経済の減速等の影響により、前年を下回りました。

このような事業環境の中、当社では全社的に経費の見直しを実施しつつ、将来に向けて取り組むべき最優先事項に対する投資は継続し、企業体質強化のための既存事業の強化と効率化、および新たな技術開発に取り組みました。

既存事業では、既取引先の深耕や新規開拓とともに、貴金属材料の供給や光触媒の販路拡大を進めるほか、製造工程の自動化・ロボット化等の効率改善に取り組みました。レアメタル事業では、リチウムイオン電池等に使用されたレアメタルの再生に注力し、二次電池材料メーカーの評価試験段階へと至っております。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご理解、ご支援を賜りますよう、お願い申しあげます。

当連結会計年度の概況

【当連結会計年度は増収減益】

当連結会計年度の業績は、高品位貴金属の取扱量がスポット的に増加したことにより、増収となったものの、主要な取引先である電子部品・デバイスメーカーの減産の影響が継続し、同分野からの貴金属取扱量が減少したことにより、減益となりました。以上の結果、売上高9,737百万円（対前期11.1%増）、営業利益157百万円（同53.3%減）、経常利益136百万円（同59.1%減）、親会社株主に帰属する当期純利益81百万円（同65.5%減）となりました。

【業績の見通しについて】

電子部品・デバイスメーカーの生産動向は下げ止まりの兆しがみられ、通信インフラ（5Gの商用化に先立つ基地局等の整備）および車載向け（ADAS（先進運転支援システム）等、自動車の電子化・車装化）において回復局面に転じると

見込んでおります。

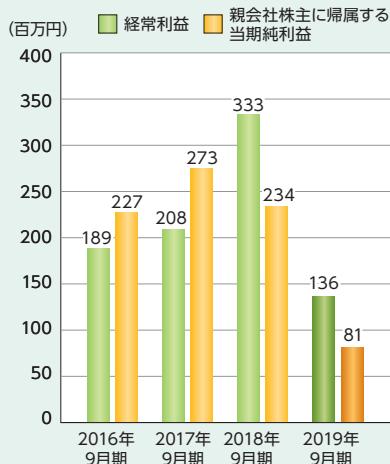
当社グループは生産回復期において、いち早く市場ニーズに応えることが出来るよう、既存事業の強化と効率化、レアメタル事業を中心とする新規事業の収益化に注力してまいります。特にレアメタル事業では、回収する原料の幅を広げながら材料化技術を高めることにより、製品の多様化・取扱品目の拡大に取り組んでまいります。

一方、本年10月に発生した台風19号の影響により、本社工場および富久山工場が浸水する被害がありました。一部製品を除き、代替生産等の手段を講じることで供給能力は確保しておりますが、連結業績予想につきましては、台風19号にかかる被害状況の調査が継続しており、復旧費用や機会損失額、またそれに応じて発生する保険金収入額等が未確定であることから、業績予想の開示が可能となった時点において当社ホームページ等を通じて速やかに公表してまいります。

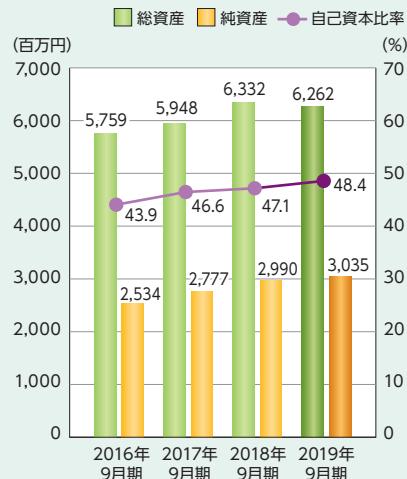
■ 売上高



■ 経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益



■ 総資産、純資産、自己資本比率



連結財務諸表

■ 連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

	当期末 (2019年9月30日)	前期末 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,250	1,210
受取手形及び売掛金	331	452
棚卸資産	1,339	1,112
その他	84	242
固定資産		
有形固定資産	2,916	2,995
無形固定資産	49	23
投資その他の資産	290	295
資産合計	6,262	6,332

（単位：百万円）

	当期末 (2019年9月30日)	前期末 (2018年9月30日)
負債の部		
流動負債	1,937	2,060
固定負債	1,289	1,281
負債合計 ①	3,227	3,342
純資産の部		
株主資本		
資本金	504	504
資本剰余金	354	354
利益剰余金	2,160	2,117
自己株式	△ 9	△ 9
その他の包括利益累計額	20	18
新株予約権	1	1
非支配株主持分	4	4
純資産合計	3,035	2,990
負債純資産合計	6,262	6,332

Point ①

負債合計は、借入金が163百万円減少し、借入金地金が63百万円増加しております。

Point ②

主な収入要因は、税金等調整前当期純利益の125百万円、減価償却費の246百万円、売上債権の減少による117百万円です。

Point ③

主な支出要因は、有形固定資産の取得150百万円と、無形固定資産の取得37百万円です。

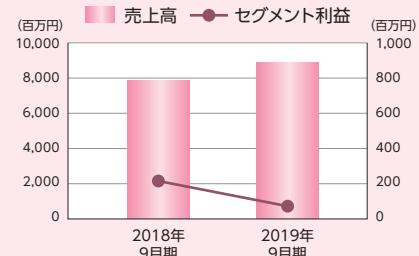
Point ④

主な支出要因は、長期借入金の返済による支出226百万円、配当金の支払額38百万円です。
主な収入要因は、短期借入金の純増額91百万円です。

主なセグメントの状況

貴金属事業

売上高は販売価格が前年を上回ったことに加え、高品位貴金属の取扱量がスポット的に増加したことにより8,829百万円（対前期12.5%増）となりましたが、主要取引先の減産による影響が継続したことによりセグメント利益は74百万円（同63.2%減）となりました。



環境事業

主力製品である銅ペレットおよび無機薬品の販売量は前期を上回りましたが、銅の販売価格が前期を下回ったことにより、売上高は777百万円（対前期2.9%減）、セグメント利益は42百万円（同55.7%減）となりました。



■ 連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

	当期 (2018年10月1日～ 2019年9月30日)	前期 (2017年10月1日～ 2018年9月30日)
売上高	9,737	8,765
売上原価	8,203	7,035
売上総利益	1,534	1,729
販売費及び一般管理費	1,376	1,392
営業利益	157	337
営業外収益合計	38	26
営業外費用合計	59	30
経常利益	136	333
特別損失合計	10	11
税金等調整前当期純利益	125	322
法人税等合計	44	84
当期純利益	80	237
非支配株主に帰属する当期純利益又は 非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△ 0	2
親会社株主に帰属する当期純利益	81	234

■ 連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

	当期 (2018年10月1日～ 2019年9月30日)	前期 (2017年10月1日～ 2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー ②	447	120
投資活動によるキャッシュ・フロー ③	△ 206	△ 281
財務活動によるキャッシュ・フロー ④	△ 189	110
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 11	2
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	40	△ 47
現金及び現金同等物の期首残高	579	627
現金及び現金同等物の期末残高	620	579

新代表取締役社長 油木田祐策よりご挨拶

第52期定時株主総会で株主の皆様からのご承認、取締役会決議により代表取締役社長に就任いたしました。三菱商事勤務時代には鉄鉱石・石炭などの資源ビジネスに加え、貴金属ビジネス、海外子会社の経営など弊社事業と関連の深い分野で、様々な経験と実績を積み重ねてまいりました。弊社は、今年創立50周年の節目の年にあたります。次の半世紀に向けて成長軌道にのせるべく、産業資材のリサイクルにとどまらず、機能性材料の提供や新たな技術開発に磨きをかけ、これまで培ってきた実績、経験を全力で投入し、株主の皆様にご信頼、応援していただける会社づくりに邁進する所存です。

引き続きご支援いただけますようよろしくお願い申し上げます。



代表取締役会長 山田 慶太



代表取締役社長 油木田 祐策



取締役
佐久間 良一



取締役執行役員
山田 浩太



取締役
佐久間 幸雄

新取締役監査等委員長 三崎秀央よりご挨拶

第52期定時株主総会にて監査等委員として選任され、同日開催されました監査等委員会を経て監査等委員長に就任いたしました。新たに就任する監査等委員と共に、各々の専門分野の知識と経験を活かし、客観的で透明性の高い経営を実現するべく監督機能を果たしていく所存です。引き続きご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



取締役監査等委員長
三崎 秀央



取締役監査等委員
高野 俊哉



取締役監査等委員
遠藤 健太郎

Information (2019年9月30日現在)

会社概要

商号	株式会社アサカ理研
本社	〒963-0725 福島県郡山市田村町 金屋字マセロ47番地
設立年月日	1969年8月25日
資本金	504,295,600円

事業内容

- ①貴金属事業 / 金地金、銀地金、白金地金、パラジウム、貴金属回収精製処理および販売、各種治具の洗浄・再生、機能部品の再生および販売
- ②環境事業 / 塩化第二鉄液の再生・販売、銅粉の回収、銅ペレットの製造・販売、光触媒の製造・販売
- ③システム事業 / 自動計測検査システム、計測ネットワークシステムの開発および販売
- ④その他の事業 / 工業薬品の運搬、廃液の収集運搬

役員

(2019年12月13日現在)

代表取締役会長	山田 慶太
代表取締役社長	油木田祐策
取締役	佐久間良一
取締役執行役員	山田 浩太
取締役	佐久間幸雄
取締役(監査等委員長)	三崎 秀央
取締役(監査等委員)	高野 俊哉
取締役(監査等委員)	遠藤健太郎

(注) 取締役(監査等委員)三崎秀央、高野俊哉、遠藤健太郎各氏は、社外取締役であります。

株式の状況

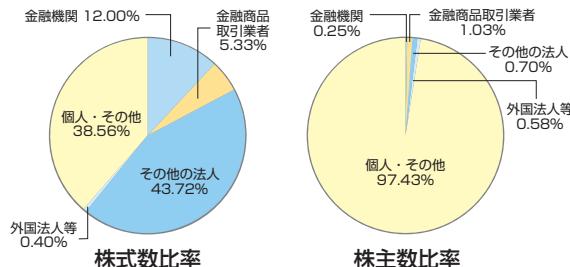
発行可能株式総数	10,200,000株
発行済株式総数	2,572,300株 (自己株式17,225株を含む)
株主数	2,417名

大株主の状況

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
有限会社モラル・コーポレーション	1,051,030	41.13
株式会社常陽銀行	90,000	3.52
株式会社東邦銀行	81,100	3.17
日本生命保険相互会社	72,500	2.84
白岩政一	71,200	2.79
第一生命保険株式会社	50,000	1.96
東京中小企業投資育成株式会社	50,000	1.96
楽天証券株式会社	29,300	1.15
アサカ理研社員持株会	28,100	1.10
松井証券株式会社	17,300	0.68

(注) 当社は自己株式(17,225株)を保有しておりますが、議決権がないため、上記に含めておりません。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別分布状況



(注) 上記比率は、当社保有の自己株式(17,225株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	10月1日～翌年9月30日
配当金受領 株主確定日	9月30日 なお、中間配当を実施するときは3月31日
定時株主総会	毎年12月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL:0120-232-711(通話料無料) [郵送先] 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

特別口座の 口座管理機関	東京証券代行株式会社
同連絡先	東京証券代行株式会社 事務センター 〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL:0120-49-7009(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.asaka.co.jp/ ※ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に公告いたします。

ご注意

- (1) 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、東京証券代行が口座管理機関となっておりますので、東京証券代行にお問合せください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行ではお手続きできませんので、ご注意ください。
- (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



—— 樹齢800年余の大イチョウ（南会津町伊南） ——

福島県緑の文化財登録第18号 県指定記念物（天然記念物）昭和28年（1953年）10月1日指定
旧伊南小学校校庭南に、孤立木としてそびえています。樹高35m、胸高幹周11mもあり、県下随一の老樹です。古くは乳の神として住民の信仰も厚く、地元はもちろん、遠く上州や越後からの参詣者が後をたななかったそうです。現在は住民の憩いの場所として、また郷土の至宝として、県の天然記念物に指定され、ふくしま緑の百景にも選定されています。このイチョウが、晩秋に一度に落葉するときは根雪が早く、チラホラと散ると雪が遅いといわれ「雪見イチョウ」の異名もあります。建久（けんきゅう）年間（1190年～1199年）会津四家の一人、久川城主初代河原田盛光が東館（ひがしだて）西館（にしだて）を築き、重臣を住ませた折に植えた庭樹と伝えられています。11代盛次の時、馬場安房が居住したので、後人、馬場屋敷と呼ばれていました。

福島の旅が丸わかり!!

うつくしま観光プロモーション推進機構（公益財団法人福島県観光物産交流協会内）
〒960-8053 福島県福島市三河南町1番20号（コラッセふくしま7階）TEL：024-525-4024 FAX：024-525-4087

提供：南会津町観光物産協会